

「是…的」構文の主語が 文意の時制等に及ぼす影響について

栗原千里

0 本論文に於いては「是…的」構文——詰まり「主語+(是)+動詞句+的」文型⁽¹⁾(以下「当文型」と略称)中の主語が当文型文意の時制等に及ぼす影響について論じたいと思う。本論文は第1章が序論, 第2章及び第3章が本論に入る為の導入, 第4章が本論, 第5章が結論と云う構成に成っており, 順次話を進めて参りたいと思う。

1 当文型は——主語の示す人物事物等が動詞句の表す内容に示される様な性質を具有している——と説明する事が基本的文意である。主語の示す人物事物等(以下「主語内容」と略称)が説明対象であり, 動詞句の表す内容(以下「動詞句内容」と略称)が説明対象(主語内容)を説明する為の説明内容であると言える。当文型は比較的単純な文型乍ら, 主語内容と動詞句内容の意味関係に因り, 基本的文意より派生して複数文意を表すに至っている。

1.1 当文型は一般的に過去の動作活動を説明する表現形式と認識されている。

这类句子(“是…的”句)只用于某一动作、情况已经完成或实现的情况。谓语要说明的重点并不是动作或情况本身, 而是与动作情况有关的某一方面。

主語 / “是” + 状語 + 動詞 + “的” (+ 賓語)

这种句式要强调的是动作的时间、地点、工具、方式、目的或对象等, 所以动词前总是有状语的。(关于“是…的”句 赵淑华)

当文型は既に完成実現された動作や状況に対する説明を行う性質のものであり,

詰まりは、動詞句内容が発話時現在以前に存在発生したと云う事と成る。当文型に於けるこの様な文意を便宜上「過去の文意」と称する事とする（以下同断）。当文型文例の特徴として、一般的に主語内容が発話者の目視又は把握可能範囲に存在する或る特定のもので、主語内容が発話時現在に於いて動詞句内容を発生存在させていない事が明白なので、動作や状況が既に完成実現されたと確認されている状況下に於いて、過去の文意を表し得るに至る訳である。

1.2 次に挙げる文例1～4は前述の様な過去の文意を表す典型文例である（文例中二重線部分が当文型中の主語部分、一重線部分が動詞句部分、以下同断）。

- 1 刘采苹的目光投向无双，打量了几眼，问道：“听李用和说，你是从大名府跑到汴京的？乐籍中人，为什么不守规矩，私自逃出？”《仁宗皇帝》⁽²⁾
- 2 公人顿时不耐烦了，“你是外乡来的吧？不知道这里是登闻鼓院吗？”《仁宗皇帝》
- 3 这家赌局乃是我们县衙郑都头开的。他是自开赌局自捉赌。《刘墉》⁽³⁾
- 4 坎儿一眼看见河岸边拴着二十匹马，都是棚里官员们骑来的。《雍正皇帝》⁽⁴⁾

文例1～4は、動詞句内容1「从大名府跑到汴京」、2「外乡来」、3「我们县衙郑都头开」、4「棚里官员们骑来」が発生存在した結果として、主語内容1「你」、2「你」、3「这家赌局」、4「二十匹马」が発話時現在に於いて存在していると受け取れる。其処から動詞句内容と主語内容との両者間に因果関係が見て取れ、原因発生後に結果が追隨する関係上、両者間に前後関係に因る時間差が見出され、主語内容が存在する発話時現在を時間基点として動詞句内容は発話時以前に発生存在したと見做され、最終的に過去の文意を表すに至っているのである。当件に関しては、下記の通り先行論文に於いても言及されている所である⁽⁵⁾。

①…“肩膀子红是扛锄头扛的。”这类句型本文记为Sf。它们有三种表现形式：

- i 肩膀子红是扛锄头扛的。
腿疼是跑步跑的。(A是“VN”)

- ii 耳朵聋是大炮震的。
皮肤黑是太阳晒的。（A是“施事”）
- iii 手凉是在外面冻的。
腰疼是在车上挤的。（A是“处所”）

Sf 三种形式的共同特点是：

- 1) T（主语）与“AV的”之间存在着因果关系，因此无论是T还是“AV的”都是已经实现了的，也就是说，整个句子是已然义的。…（表已然义的“的b”补议 史有为）

因果関係より現出される時間差に因って当文型は過去の文意（已然義）⁽⁶⁾を表すに至っている。

1.3 さて1.2, 1.3に於いて過去の文意を表す文例について説明したが，当文型全文例がそのような特性を持ち合わす訳ではなく，当然乍ら当文型中の動詞句と主語との間に文例1～4の様な因果関係を常に見て取れる訳ではなく，従って当文型が常に過去の文意を表す訳でもなくなるのである。

- 5 万岁，不要多想这些。太子的事臣是最知道的，万岁真做到了仁至义尽，即有今天的事，万岁无愧于天下后世。《雍正皇帝》
- 6 吏治败坏是明摆着的，难怪四爷十三爷着急，但积重难返，单凭血气之勇一味地捅，也不好办——世纶，说说看，安徽人对这事是什么口风？《雍正皇帝》
- 7 老太太在旁抚着李绂肩头，哽咽道：“真是个知礼的——你是进京应试的吧？”《雍正皇帝》
- 8 原是人多的，可可儿今个西市上出红差杀人，客人们都赶着瞧热闹去了！——这碗酸梅汤，是小人孝敬爷的，请用！《雍正皇帝》

文例5～8については，主語内容5「臣」，6「吏治败坏」，7「你」，8「这碗酸梅汤」が発話時現在に於いて存在する所であるが，その動詞句内容5「最知道」，6「明摆着」は発話時現在に於いて発生存在しているものと見て取れるが，又7「进京应试」，8「小人孝敬爷」は発話時現在に於いて未発生未存在で以後存在発生するであろうものと見て取れる。詰まり「現時的文意（動詞

句内容が文の発話時現在に発生存在していると云う文意，便宜上この様に称するが，以下同断）」と「未来的文意（動詞句内容が文の発話時現在以後に発生存在するであろうと云う文意，便宜上この様に称するが，以下同断）」を表すものも当文型には存在すると云う事に成るのである。

1.4 当文型が過去の文意以外を表し得る事は上述の通りであるが，先行論文に於いても既に言及されている所である。

a (未然義)

面包是我吃的，(你别吃!) ⇔ 这是我吃的面包，(你别吃!)

这歌是我唱的，(你别拿走。) ⇔ 这是我唱的歌，(好听吗?)

这球是他踢的，(谁也不准动!) ⇔ 这是他踢的球，(谁也不准动!)

b (已然義)

面包是我吃的，(明天我赔你。) ⇔ 是我吃的面包，(明天我赔你。)

这歌是我唱的，(好听吗?) ⇔ 是我唱的歌，(好听吗?)

这球是他踢的，(真漂亮!) ⇔ 是他踢的球，(真漂亮!)

这种对立确实很迷人。以致我们一度曾认为可以归结为“的 a”和“的 b”的对立。但是这种对立在“灯是谁开的？”和“是谁开的灯”中却得不到反映，也就是说，我们无法在整个系统上作出存在“已然義”和“未然義”对立判断。再进一步观察可以发现上述的对立只是表面的，实质上并不对立。因为这些句子中的 To 或 No 不是同一个语义。a 类的“面包”是指尚未吃的食品；b 类的“面包”却是指经过咀嚼、吃下胃里的东西。a 类的“歌”是指在印纸上，表现为音符和文字的那种客体；b 类的“歌”却是指发自口中的一种旋律、有意义的声音。a 类的“球”是一种球状的体育器材；b 类的“球”则是指球状体育器材行进的形式和走向。…

(表已然義的“的 b”补议 史有为)

当文型が過去の文意（已然義）以外に未来的文意（未然義）も表し得ると言及し，更に同様「面包」「歌」「球」にしてもその発話時現在に於ける主語内容の存在状態如何で文意に影響を与え得るとも指摘している。詰まり主語内容が発話時現在に存在するか否か，存在しない場合は何時存在し得るか，又その様な情報

を発話者は把握しているか否か、全て文意に影響を与え得る要素と成るのである。そして主語内容が存在する発話時現在を時間基点⁽⁷⁾として、動詞句内容が発話時現在以前に発生存在したもの（過去の文意）、発話時現在時に発生存在しているもの（現在の文意）、更には発話時現在以後に発生存在するであろうもの（未来的文意）、と表す三種文意が出揃う事と成る。この様に三種文意（過去の文意、現在の文意、未来的文意）が出揃うと「主語の示す人物事物等が動詞句の表す内容に示される様な性質を具有している」と云う基本的文意と整合性を欠く様な錯覚に陥り易いのであるが、飽く迄錯覚で整合性は保持されている。詰まり、動詞句内容が発話時現在以前に発生存在した、発話時現在時に発生存在している、発話時現在以後に発生存在するであろう、と云う性質を主語内容が漠然と具有していると云う事であり、基本的文意と抵触しないのである。三種文意（過去の文意、現在の文意、未来的文意）は主語内容と動詞句内容の意味関係より現出される所であり、基本的文意より派生した二次的文意と見る事が出来るのである（拙稿⁽⁸⁾参照）。当文型は基本的文意の上にこの様な派生的二次的文意が付加されて成り立っていると云える。派生的二次的文意と雖も、当文型が会話等で実用される場合、その派生的二次的文意が重点文意と成る訳で、その成立過程の仕組みを解明する事は大変重要なのである。本稿冒頭に於いて「主語 + (是) + 動詞句 + 的」文型中の主語が当文型文意の時制等に及ぼす影響について論じたい」と述べたが、此処で指す所の文意とは主にこの派生的二次的文意を指して言っているものである。派生的二次的文意は基本的文意を基礎として主語内容と動詞句内容の意味関係より現出される所である。本論文に於いては特に主語内容（主語の示す人物事物等）に焦点を置いて之を論じたいと思う。

2 焦点たる主語内容部分を論ずる前に、先ず動詞句部分に関して簡単に説明を加えてゆきたいと思う。動詞句内容を取り出して見た場合に、表す所の内容に何等かの動態的意味合いを伴うもの —— 動作活動や状態変化を表す —— と、動態的意味合いを伴わないもの —— 一定の状態性質を表す —— とに分けられる（説明の便宜上、暫定的に前者を「動態的動詞句」、後者を「非動態的動詞句」

と称する事とする) ののであるが、動態的動詞句と非動態的動詞句について説明したいと思う。

2.1 先ず動態的動詞句（動作活動や状態変化を表す）について。

- 9 不过这回奴才是奉差来的。太子爷卯时就进来了，因主子刚睡着，没敢惊动，叫奴才侍候着主子醒了再去叫他呢。《雍正皇帝》
- 10 “布商的两辆大车在路上等候，他要小民找地保一同报官，就匆忙赶路去了。”“你是如何到县衙报案的？”《刘墉》
- 11 “本宫听说他还特地给你送去一位妙龄歌女？”刘采苹继续揭晏殊的底儿，“是想让你替他说几句好话吧？”晏殊头上直冒汗，这些刘采苹怎么知道的？《仁宗皇帝》
- 12 今日这点菲酌，全是从我俸银中备办的。当然，这也是民脂民膏，却是十分洁净。《雍正皇帝》
- 13 这副楹联是方苞题写的，好一笔字！《雍正皇帝》
- 14 大人，我的名字中的‘警’字下的‘言’字被人用黑墨水给涂盖上了。你二人说这是谁干的？《刘墉》

文例9～14の動詞句内容9「奉差来」，10「如何到县衙报案」，11「怎么知道」，12「从我俸银中备办」，13「方苞题写」，14「谁干」は全て動態的動詞句と見做せ，その動詞句内容は動作活動と見做せる。動態的動詞句の動詞句内容は常に動作活動や状態変化を表すものである。又，次の文例15，16は一見動態的動詞句の様に映るのであるが，実はそうではないと云う例である。

- 15 我毕竟是钦差，是龙子凤孙，钟鸣鼎食之间，不能忘情于生死天命。其实这歌，上半阙是送葬王公贵人的，就是指我和十三爷这些人；下半阙是送葬士大夫庶人的——就是指的在座各位。《雍正皇帝》
- 16 上回老十去我那里借《黄孽师集》，你知道这是禁书，里头是推断朝代兴替的，我怕下头人知道了不好，亲自去讨…。《雍正皇帝》

文例15，16の動詞句内容15「送葬王公贵人」，16「推断朝代兴替」自体は動作活動の様に映るが，その説明対象たる主語内容15「(这歌) 上半阙」，16「(禁书) 里头」の影響を受け，動作活動とは見做せなく成っている。詰まり歌詞書籍の

内容如何を説明するものであって、実際に動詞句内容が表す様な動作活動が発生存在する訳ではない。発話時現在に於いて存在する主語内容、詰まり歌詞書籍の内容が、発話時現在に於いて動詞句内容の通り存在すると示すのみで、この様な場合は一定の状態性質を表すもの（非動態的動詞句）と見做すのが妥当である。

2.2 次に非動態的動詞句（一定の状態性質を表す）について。

- 17 六王爷看出女儿对刘墉的相貌虽然不甚满意，但对刘墉还是十分欣赏的。《刘墉》
- 18 儿子也是喜爱文士的。不过这位李绂先生既是来应考，理应回避，住在府里不相宜。既然母亲有这个慈命，儿子想，不如住到我们家庙里读书。《雍正皇帝》
- 19 乾隆心花怒放，但又不便立即答应和珅的请求，他自己有多少才德乾隆自己是有自知之明的，他想等再有几位大臣一起下跪奏请可顺水推舟让和珅准备封禅之事了。《刘墉》
- 20 原来赵恒驾崩之前，雷允恭在赵恒写的遗诏上大胆地押了御宝，才有了刘采苹今天主宰一切的局面，在这件事上，雷允恭对刘采苹是有恩的。《仁宗皇帝》

文例17～20の動詞句内容17「十分欣赏」、18「喜爱文士」、19「有自知之明」、20「有恩」は一定の状態を表し、動作活動や状態変化とは見做せないものである。

- 21 他更知道如果没有母后，单凭自己，是根本撑不起朝廷门面的。《仁宗皇帝》
- 22 自从入宫以后，就没到你府上来过，自然不常见到你，可那是因为本宫身居矮檐下，不由自主，不是不想来看你啊！这一点张将军一定是可以原谅的，对不对？《仁宗皇帝》
- 23 八爷杀了我吧！……若论天理、王法，我真是死有余辜的。《仁宗皇帝》
- 24 刚才还觉得杜衍做个参知政事毫不为过，转瞬之间，竟要把他打到刑部大牢，这是刘采苹无论如何也不愿接受的。《仁宗皇帝》

文例21～24の動詞句内容21「根本撑不起朝廷门面」, 22「可以原谅」, 23「死有余辜」, 24「刘采苹无论如何也不愿接受」は一定の性質を表し, 動作活動や状態変化とは到底見做せないものである。この様に非動態的動詞句は常に一定の状態性質を表すものである。

3 当文型の主語内容は, 動詞句内容(動作活動, 状態変化, 状態性質)の発生主体と見做せる場合と動詞句内容の受容客体⁽⁹⁾と見做せる場合の二種に大別できる。

3.1 主語内容が動詞句内容の発生主体と見做せる場合について。

- 25 不料女子答道：“我是从河北来的，不归你管。我要告的是大官儿，你根本管不了他！”《仁宗皇帝》
- 26 刘墉转向胡知县，问道：“胡知县，你是如何审理此案的？”《刘墉》
- 27 听了刘采苹的话，吕夷简说不清心里是什么滋味。当今皇上乃李静婵所生，他是知道的…。《仁宗皇帝》
- 28 说起刘罗锅，那是三天三夜也说不完，休提，休提，家家都有本难念的经。我们的苦处你是不会明白的。《刘墉》

文例25～28の主語内容25「我」, 26「你」, 27「他」, 28「你」は動詞内容の発生主体と見做せるものである。又動詞句内容については25「从河北来」, 26「如何审理此案」が動態的動詞句と見做せ, 27「知道」, 28「不会明白」は非動態的動詞句と見做せる。

3.2 主語内容が動詞句内容の受容客体と見做せる場合について。

- 29 你方才说的倒也直爽，你这个孝廉是花钱买来的！这次进京又要撞哪位大爷的木钟了？《雍正皇帝》
- 30 你老人家何必！您是赐紫禁城骑马的，见了皇上尚且不行大礼，我怎么当得起？《雍正皇帝》
- 31 雷允恭一听就明白丁谓指的是曹利用和王曾，这两个人说话做事不好商量，是朝野内外出了名的。《仁宗皇帝》
- 32 有没有真才实学，皇上既然信不过我，也可以重新命题科考一遍，我不敢

妄称第一，但真才实学还是有的。《刘墉》

文例29～32の主語内容29「你这个孝廉」，30「您」，31「这两个人说话做事不好商量」，32「真才实学」は動詞句内容29「花钱买来」，30「赐紫禁城骑马」，31「朝野内外出了名」，32「有」の受容客体と見做せるが，文例15，16内29「花钱买来」，30「赐紫禁城骑马」は動態的動詞句と見做せ，31「朝野内外出了名」，32「有」は非動態的動詞句と見做せる。さて主語内容が動詞句内容の受容客体と見做せる場合，動詞句内容の発生主体は主語内容以外のものである為，因って之を明示出来る場合，動詞句部分の主語として別途付加する事も多い。

33 “李淦”胤禛干巴巴说道。“你这官是朝廷给的，而且来之不易，所以我不剥你的官印。但你是大哥的奴才，我瞧着和我的奴才差不多。是不是？”
《雍正皇帝》

34 “喜欢，喜欢！”和珅连声说道，双手接过来，赞叹道，“玉玲珑，好名字，好东西！高大人哪儿弄来这么个宝贝！”高巡抚哪能说话，便答道：“回大人，这是下官花重金从一富商手上买回来的。”《刘墉》

35 “…比如刑部的案子，如果牵连到九爷十爷，八爷下得手么？”这正是胤祀最担心的，被阿灵阿这个病夫一言中的，胤祀的脸色一下子变得异常苍白…《雍正皇帝》

36 “夫人贤淑，待我情深义重，人又漂亮，我刘墉有夫人一人，一生足矣！”
“真的？”刘夫人似笑非笑，“刘墉啊，刘墉，这可是你自己推辞不掉的。以后要是跟我有花花肠子，我可就……”《刘墉》

文例33～36の動詞句冒頭33「朝廷（给）」，34「下官（花重金从一富商手上买回来）」，35「胤祀（最担心）」，36「你自己（推辞不掉）」部分が付加された動詞句内容の発生主体に当たる。この様な構造は当然乍ら主語内容が動詞句内容の受容客体である場合に限定される。主語内容が動詞句内容の発生主体である場合，主語即ち発生主体であるので，動詞句部分に於いて再提示される事は無いのである。

4 愈々本論に入りたいと思う。当文型に於いて主語内容は動詞句内容に依って説明される説明対象であり、又更に文意現出の為の時間基点的存在でもある。当文型文意は三種文意（過去の文意、現在の文意、未来的文意）に跨るのであるが、当三種文意は主語内容と云う時間基点を基軸として現出され得るものである。因って主語内容の存在時間や存在状態が三種文意現出の為の重要要素と成り、この様な観点より考えると、主語内容は以下甲～丁類の四類に分けられる。

甲類、主語内容が発話時現在に於いて発話者の目視又は把握可能範囲内に存在する或る特定のものと見做せる場合。

乙類、主語内容が発話時現在以前に存在し、発話時現在に於いては既に存在せず、単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合。

丙類、主語内容が発話時現在以後に存在し、発話時現在に於いては未発生未存在で、単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合。

丁類、主語内容が一般的不特定多数を指すものと見做せる場合。

4.1 甲類、主語内容が発話時現在に於いて発話者の目視又は把握可能範囲内に存在する或る特定のものと見做せる場合について。この様な場合、主語内容の存在する発話時現在が時間基点と成る。

4.1.1 甲類主語に対して動態的動詞句が組み合わされる場合、甲類主語内容が時間基点（発話時現在）に於いて存在する一方で、動態的動詞句の動詞句内容が時間基点（発話時現在）に於いて発生存在しているか否か発話者は把握しているので、之に因って文意に影響が生ずる。

4.1.1.1 甲類主語内容は時間基点（発話時現在）に於いて存在するのであるが、動態的動詞句の動詞句内容が時間基点（発話時現在）に於いて発生存在していない場合、その発生存在時間は発話時現在以前又は発話時現在以後に限定される事と成る。詰まり過去の文意か未来的文意に限定される訳である。比率的には過去の文意を表すものが未来的文意を表すものより圧倒的に多い。然し両者とも確実に存在する。

- 37 “如此说来，那文章也不是你写的了？”“学生是照着吴仁魏的稿子抄的！”
《刘墉》
- 38 白玉莲一旦做出决定，反倒平静了许多，回答说：“老人家有所不知，我是趁着布商出门时的混乱，偷着溜出门外的。”《刘墉》
- 39 好半天，高抚台才把供词放在桌子，问道：“怎么连被杀之人是谁也没有弄清楚？那女人又在何处？孙刑道，你的这份供词全是靠严刑拷打出来的？”《刘墉》
- 40 世叔有所不知，此物叫玉玲珑，是当年康熙爷赏赐曹玺的，后来，曹家被抄，败落下来，曹家的奴才就偷出这件宝贝卖给珠宝商。辗转几手，被侄儿我花五万两银子买回来的。《刘墉》

文例37～40の主語内容は37「学生」、38「我」が動詞句内容の発生主体と見做せ、39「你的这份供词」、40「玉玲珑」が動詞句内容の受容客体と見做せるが、主語内容37「学生」、38「我」が時間基点（発話時現在）に於いて動詞句内容37「照着吴仁魏的稿子抄」、38「趁着布商出门时的混乱，偷着溜出门外」を発生存在させていない事、又主語内容39「你的这份供词」、40「玉玲珑」が時間基点（発話時現在）に於いて存在している一方で、動詞句39「靠严刑拷打出来」、40「辗转几手，被侄儿我花五万两银子买回来」は発生存在していない事が見て取れるので、結果として動詞句内容が発話時現在以前に発生存在したと云う過去の文意を表すに至っている。

- 41 这一路千里荒沙，住店的寥寥无几，客中相逢文友极少，也算缘分。客人尊姓台甫，也是赶顺天府试的吗？《雍正皇帝》
- 42 这些人毕恭毕敬地排着队等候府里传召，高明楼正要迈步上前，却被前面的大个子拦住了。“噢，这位年兄，也是求见和大人的？”《刘墉》
- 43 大人错会我的意思了，我能有今天，对和大人已经感激涕零终生不忘，怎么还会不识时务呢？我专程来见大人是报告这今科状元之事的，据我所知，今科头名刘墉是东阁大学士刘统勋的儿子，不知大人是否知道？《刘墉》
- 44 武丹倒没什么，只说一定还钱，就连其余三个人他们书信来往，也没有一个顶债不还的。但他们的家底我知道，砸锅卖铁也难以清偿的。所以我猜

肯定是万岁爷要从自己体己钱里拿出来替他们还的。《雍正皇帝》

文例41～44の主語内容は41「客人」、42「这位年兄」が動詞句内容の発生主体と見做せ、43「我专程来见大人」、44「债」が動詞句内容の受容客体と見做せる。そして主語内容41「客人」、42「这位年兄」が時間基点（発話時現在）に於いて動詞句内容41「赶顺天府试」、42「求见和大人」を発生存在させていない事、又主語内容43「我专程来见大人」、44「债」が時間基点（発話時現在）に於いて存在している一方で、動詞句内容43「报告这今科状元之事」、44「万岁爷要从自己体己钱里拿出来替他们还」が発話時現在に於いて発生存在してない事が見て取れるので、結果として動詞句内容が発話時現在以後に発生存在するであろうと云う未来的文意を表すに至っている。

- 45 大勇故作神秘的说：“实话告诉你，我就是江宁府的差役陈大勇，专门来为府台大人挑姑娘的。”《刘墉》
- 46 “没错没错，这地方我来过！”齐嫂赔足了笑道，“我是来找李用和李大老爷的！”《仁宗皇帝》
- 47 我是特来托付妻子的。四弟面冷，你豪爽。但我知道，你们都是古道热肠，肝胆血性的男子汉。自古废黜太子没有一个有好下场，我死不足惜，世子还小，万一有个三长两短，我可怎么……《雍正皇帝》
- 48 这群庄丁有的拿着火折子，有的带着棍棒，看样子就是来点灯巡逻的。《雍正皇帝》

文例45～48の様な形式も多く見られるものである。文例45～48の主語内容45「我」、46「我」、47「我」、48「这群庄丁」は全て動詞句内容の発生主体と見做せ、動詞句内容46「专门来为府台大人挑姑娘」、47「来找李用和李大老爷」、48「特来托付妻子」、49「来点灯巡逻」は全て動詞「来」を含む連動文形式の動態的動詞句と見做せる。動詞句前半部分45「专门来（来为府台大人挑姑娘）」、46「来（找李用和李大老爷）」、47「特来（托付妻子）」、48「来（点灯巡逻）」は発話時現在以前に発生存在したものと見て取れ、同後半部分45「（专门来）为府台大人挑姑娘」、46「（来）找李用和李大老爷」、47「（特来）托付妻子」、48「（来）点灯巡逻」は発話時現在以後に存在発生するであろうものと見て取れる。詰ま

り、同一動詞句内に過去の文意と未来的文意が並存しているのである。これは一見奇妙に覚えるが、当構文中の「動詞句+的」構造の基本的文意が、動詞句内容を漠然と具有するものである、と示すのみのものであり、固より三種文意（過去の文意、現在の文意、未来的文意）と云う概念に拘泥するものではないので、この様な事に成る。但し動詞句内容の語意重点は後半部分45「为府台大人挑姑娘」、46「找李用和李大老爷」、47「托付妻子」、48「点灯巡逻」に在る為、全体として未来的文意と見做すのが妥当と思われる。

4.1.1.2 甲類主語内容は時間基点（発話時現在）に於いて存在するのであるが、動態的動詞の動詞句内容が時間基点（発話時現在）に於いて発生存在している場合、当然その発生存在時間は発話時現在に限定される。詰まり現在の文意に限定される。

- 49 他二话没说，抓起笔管在黄裱纸上胡乱画了起来，白玉莲看不懂画的什么玩意儿。其实刘墉也不知道自己画的啥，他是瞎蒙的。《刘墉》
- 50 “太后，日后后宫里因此而起波澜，勿谓臣今日没有提起此事啊！”吕夷简明知刘采苹难以劝服，还是补了一句，似乎是给王曾和晏殊听的。《仁宗皇帝》
- 51 这是例行引见，通常只是见面磕头辞行，康熙这样叮嘱两个小吏，算是很优待的了，几个上书房大臣揣摩着这话，都觉得皇帝是说给别人听的。《雍正皇帝》
- 52 “钟青儿，我告诉你，你们这家院子凶得厉害，夜里要闹鬼哩！”青儿伸出头来，啐了他一口说：“这是怎么说的，叫人怪害怕的，滚吧你，臭道士！”《刘墉》
- 53 和珅嘻嘻一笑：“那我就不客气了，刘墉，你说说什么东西最肥，什么东西最瘦，什么东西最贵，什么东西最贱，什么东西最大，什么东西最小？”刘墉估计是乾隆与和珅商量好考一考自己的… 《刘墉》
- 54 胤祥听着耳熟，却一时再想不起，因下马进店，张眼望时，店中并无客人，歌是楼上传下来的，略一沉吟，一屁股临窗坐了… 《雍正皇帝》

文例49～54の主語内容は49「他」、50「吕夷简」、51「皇帝」が動詞句内容の発

生主体と見做せ, 52「这」, 53「什么东西最肥, 什么东西最瘦, 什么东西最贵, 什么东西最贱, 什么东西最大, 什么东西最小」, 54「歌」が動詞句内容の受容客体と見做せるが, 主語内容49「他」, 50「吕夷简」, 51「皇帝」が時間基点(発話時現在)に於いて動詞句内容49「瞎蒙」, 50「给王曾和晏殊听」, 51「说给别人听」を発生存在させている事, 又主語内容52「这」, 53「什么东西最肥, 什么东西最瘦, 什么东西最贵, 什么东西最贱, 什么东西最大, 什么东西最小」, 54「歌」が時間基点時(発話時現在)に於いて存在している一方で, 動詞句内容52「怎么说」, 53「乾隆与和珅上来好考一考自己」, 53「楼上传下来」も時間基点(発話時現在)に於いて丁度発生存在している事が見て取れるもので, 結果として現在の文意を表すに至っている。

4.1.1.3 甲類主語は時間基点(発話時現在)に於いて存在するのであるが, 動態的動詞句の動詞句内容が時間基点(発話時現在)に於いて発生存在しているか否か余り拘泥しない場合も存在し, その場合は時間基点(発話時現在)に於ける発生存在時間不定の習慣行為や慣例行為を表す。一応現在の文意に属するものである。

55 平时本将军怎么教训你的? 你这个没出息的东西! 《仁宗皇帝》

56 皇上明鉴, 奴才是负责内务府的, 对破案并不内行, 刚才只是奴才的一个小小建议, 何况皇太后六十大寿快要到了, 奴才还要为太后寿辰操办呢, 怎能再有心思去破案? 《刘墉》

57 “怡香楼是干什么的?” “怡香楼是金陵城最豪华的酒楼, 还设有小姐作陪的包房。大人初到江宁, 卑职等略备薄酒, 为大人洗尘, 请大人下轿吧!” 《刘墉》

58 小人打听到, 那东边的小门是专递礼单的, 小人把礼单呈上, 人家就给了这个号牌。待会儿府里喊到您的号牌, 您就进去。小人把礼物送进去。《刘墉》

文例55~58の主語内容は55「本将军」56「奴才」が動詞句内容の発生主体と見做せ, 57「怡香楼」, 58「那东边的小门」が動詞内容の受容客体と見做せる。主語内容55「本将军」, 56「奴才」が時間基点(発話時現在)に於いて動詞句内

容55「怎么教训你」, 56「负责内务府」を発生存在させているか否かは余り重要ではなく, 主語内容55「本将军」, 56「奴才」が時間基点(発話時現在)を中心とする一定時間範囲内に於いて55「怎么教训你」, 56「负责内务府」と云う動詞句内容を一定頻度で発生存在させている状況下に在ると説明する事に文意の重点がある。又主語内容57「怡香楼」, 58「那东边的小门」が時間基点(発話時現在)に於いて存在している一方で, 動詞句内容57「干什么」, 58「专递礼单」が時間基点時(発話時現在)に於いて発生存在しているか否かは余り重要ではなく, 57「怡香楼」, 58「那东边的小门」が時間基点時(発話時現在)を中心とする一定時間範囲内に於いて動詞句内容57「干什么」, 58「专递礼单」が一定頻度で発生存在している状況下に置かれていると説明する事に文意の重点がある。

4.1.2 甲類主語に対して非動態的動詞句が組み合わされる場合について。非動態的動詞句は前述の通り一定の状態性質を表すもので, 動態的動詞句の動詞句内容(動作活動, 状態変化)の様な開始終了の概念が薄弱である。その発生存在時間は主語内容の存在時間に追従する事に成る。因って甲類主語に対して非動態的動詞句が組み合わされる場合, 動詞句内容たる状態性質の発生存在時間は甲類主語内容に追従して発話時現在と自動的に設定される事と成る。

- 59 大人哪, 那卷上的字是我的, 可文章……那是学官吴仁魏的。人都说他是无人情味, 其实, 他是很有人情味的, 那不就是五千两银子么? 《刘墉》
- 60 她感到情绪有些失控, 不自主地往张耆面前迈了一步, 拉着张耆的胳膊, 颤声说道: “你嘴笨本宫是知道的, 可你的手会比嘴还笨吗?” 《仁宗皇帝》
- 61 “…怎么朕亲笔朱谕给魏东亭, 叫他缓缴欠银, 南京通政司衙门还是一日三催? 要不是这么逼着, 魏东亭死得这么早?” 胤初想了想, 这件事他是有责任的… 《雍正皇帝》
- 62 三位爷, 请包涵着点。新来的太尊车铭车老爷在楼上宴客, 楼上不方便。爷们要嫌地下闹, 那边还空着一间雅座, 面湖临窗, 一样儿能赏景儿的…… 《雍正皇帝》

63 不妨请下旨问问胤祥，看他自己是怎么说，这事不好轻易下决断的。《雍正皇帝》

64 他对杨崇勋的话，思路是无可挑剔的，杨崇勋听了肯定会高兴，但丁谓心里明白，自己提出让杨莺莺一同处分军国大事，曹利用肯定会坚决反对，王曾也会跳出来阻拦… 《仁宗皇帝》

文例59～64の主語内容は59「他」，60「本宮」，61「他」が動詞句内容の発生主体と見做せ，62「一间雅座」，63「这事」，64「思路」が動詞句内容の受容客体と見做せるが，主語内容59「他」，60「本宮」，61「他」は時間基点（発話時現在）に於いて動詞句内容59「很有人情味」，60「知道」，61「有责任」を発生存在させており，主語内容62「一间雅座」，63「这事」，64「思路」は時間基点時（発話時現在）に於いて動詞句内容62「面湖临窗，一样儿能赏景儿」，63「不好轻易下决断」，64「无可挑剔」の表す状況下に置かれていると説明している。その発生存在時間は甲類主語内容の存在時間に追隨して現在の文意と成る訳であるが，若し時間差を付けたい場合は下記の通り表現を補充する。

65 如今胤初出事，他原是欢喜不尽的，但接着大阿哥也出了事，刚刚松和一点的精神又拉得绷紧。《雍正皇帝》

66 先生真是神人，懂得神机妙算，就是八卷发黄的破书。当时我不同意帮他保管的，我说几本破书值什么钱，我家王爷府中到处都是，仇八却说我不懂，说这些书可值钱了，我问他值多少，他说至少也一万两银子。《刘墉》

67 胤初糊里糊涂辞出来，心里直犯嘀咕：清理户部的差事，自从胤禎代他清账之后，原是有些兴头的，没想到康熙面儿上几次夸奖，心里竟有许多的不是。魏东亭死了，穆武两个人还不知向皇上密陈了什么，要再死了曹寅可怎么好？《雍正皇帝》

68 朝阳门码头是运河北端之终点，明末战乱失修，原是久已湮没淤塞，不成摸样了的。《雍正皇帝》

文例65～68の主語内容は65「他」，66「我」が動詞句内容の発生主体，67「清理户部的差事」，68「朝阳门码头」が動詞句内容の受容客体と見做せ，非動態的動詞句が組み合わされている為，元来は現在の文意を表す処，「原」「当时」

「原」「原」を付加する事に因り、動詞句内容65「欢喜不尽」、66「不同意帮他保管」、67「有些兴头」、68「久已湮没淤塞，不成摸样了」の発生存在時間が発話時現在以前に引き上げられ、過去の意味を表すに至っている。

4.2 乙類，主語内容が発話時現在以前に存在し，発話時現在に於いては既に存在せず，単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合について。この場合，主語内容の存在した発話時現在以前が時間基点と成る。説明対象である乙類主語内容が時間基点（発話時現在以前）に存在する為，従って動詞句内容もこの影響を受けて全体的に過去の文意を表すに至る。

4.2.1 乙類主語に対して動態的動詞句が組み合わされる場合について。この場合，発話時現在以前に存在する乙類主語内容の存在時間と動詞句内容の発生存在時間との関係で，時間基点時（発話時現在以前）を基軸とした更なる三種文意（過去の意味，現在の意味，未来的意味）が現出される。各々過去過去の文意，過去現在の文意，過去未来的文意と便宜的に称することとする。

4.2.1.1 過去過去の文意を表す場合について。

69 很早以前，山上有一个工厂，在那儿工作的都是乡下来的。

70 从前这儿住着几位工程师，他们是自己愿意到这儿来的。

71 “先皇帝天禧五年，你口称能求天神医好先帝的病，还在皇家后院掘得一只金甲神龟…” “那金龟真是从后院里掘出的吗？”《仁宗皇帝》

72 “道爷的卦还真灵呢，你不是说这院子里邪气重，有鬼嘛。谁知昨夜还真闹鬼哩，又是哭，又是叫，还扔砖头擦瓦，把尿盆都给打碎了，今晚就没得用。还请道爷给驱驱鬼吧！”刘墉暗笑，那鬼就是我派来的。《刘墉》

文例69～72の主語内容は69「在那儿工作的」、70「他们」が動詞句内容の発生主体と見做せ，71「那金龟」、72「那鬼」が動詞句内容の受容客体と見做せるが，動詞句内容69「乡下来」、70「自己愿意到这儿来」、71「从后院里掘出」、72「我派来」と主語内容との間に因果関係に因る前後関係を見て取れる為，動詞句内容の発生存在時間は時間基点（発話時現在以前）を基軸として更にそれ以前と成る。所謂大過去の様な存在である。

4.2.1.2 過去現在の文意を表す場合について。

- 73 “身为朝廷命官，如此草菅人命，死有余辜！”“父亲有所不知，那两个婢子都是得病死的，杜衍却一口咬定是黄德利害了他们。该死的是杜衍啊！呜呜……呜呜”《仁宗皇帝》
- 74 上一科北闈，是王鸿绪和蔡叙的主考，下头十八房考官，听说没一个黑房！听说这个张三公子，听说是张相不许他走恩荫的路，功课逼得紧，累得病死的——《雍正皇帝》
- 75 昨天已经见了武丹，私下里问了问，他和魏东亭、曹寅、穆子煦共欠银子折到四百万两。银子，确是万岁爷几次南巡接驾花的。《雍正皇帝》
- 76 老爷，奴婢昨天晚间做了个梦，梦见朝廷来人召老爷回汴京呢，咱那所老宅子一点样儿也没变，门还是奴婢开的呢！《仁宗皇帝》

文例73～76の主語内容は73「那两个婢子」，74「这个张三公子」が動詞句内容の発生主体と見做せ，「银子」「门」が動詞句内容の受容客体と見做せる。一見すると，主語内容が発話時現在以前に一定時間存在し，動詞句内容73「得病死」，74「张相不许他走恩荫的路，功课逼得紧，累得病死」，75「万岁爷几次南巡接驾花」，76「奴婢开」はその内の一時点に発生存在したのみの様に映るが，乙類主語内容存在時に動詞句内容も発生存在した訳であるので，過去現在の文意と見做すのが妥当である。

- 77 乾隆哪里知道刚才的对弈中，这第二局是刘墉为了给夏儿面子故意让她的。《刘墉》
- 78 康熙四十二年索额图谋逆，是背着他干的，这件事经大理寺、刑部和理藩院审结，由张廷玉亲自掬讞，早已是定论。《雍正皇帝》

文例77，78の主語内容77「这第二局」，78「康熙四十二年索额图谋逆」は動詞句内容の受容客体と見做せるが，その発生存在時間が動詞句内容77「刘墉为了给夏儿面子故意让她」，78「背着他干」の発生存在時間と全く重なるので，同様に過去現在の文意と見做せるものである。

- 79 本宫不管先祖皇上是如何做的，决不允許你冒犯人伦，胡作非为！何况夏儿格格已经同刘墉订下婚约，你怎能无端拆毀他人美满婚姻？《刘墉》

- 80 不瞞先生说，晏某那个枢密副使也是太后安插在枢密院，专为寻曹侍中短处的。只是晏某还懂得何为礼义廉耻，没让太后满意，朝堂上又替曹枢密说了几句公道话，便被赶到应天府来了。《仁宗皇帝》

文例79, 80の主語内容は79「先祖皇上」が動詞句内容の発生主体と見做せ、80「晏某那个枢密副使」が動詞句内容の受容客体と見做せるが、動詞句内容79「如何做」、80「太后安插在枢密院，专为寻曹侍中短处」が時間基点（発話時現在以前）に於いて発生存在しているか否か余り拘泥しないものであり、時間基点（発話時現在以前）に於ける発生存在時間不定の習慣行為や慣例行為を表している。然し一応過去現在の文意に属すると見做せるものである。

4.2.1.3 過去未来的文意を有する場合。

- 81 我小时候，火车站前面的广场上常常挤满了人，那些人是到外地找工作去的。
- 82 在高明楼身边多年，他见过的金银珠宝、字画古玩太多了。有的是人家送给高明楼的，也有的是高明楼巴结上司的，可是，这一次，高明楼如此不惜血本，倾囊而出，让他感到心惊。《刘墉》

文例81, 82の主語内容は81「那些人」が動詞句内容の発生主体と見做せ、82「有的」が動詞句内容の受容客体と見做せるが、動詞句内容81「到外地找工作去」、82「高明楼巴结上司」の発生存在時間が時間基点（発話時以前）より以後と見て取れる為、過去未来的文意と見做せる。動詞句内容が時間基点（発話時以前）と発話時現在の間に発生存在したであろうと予測させる文意である。

4.2.2 乙類主語に対して非動態的動詞句が組み合わされる場合について。

- 83 很早以前我爷爷还在世时，常在自己房间一个人呆着，他是很爱清浄的。
- 84 我办差不力、行止有亏子之道都是有的，小人辈构陷大逆罪名，置我于不臣之地，污我为叛君奸邪，胤初虽死不能瞑目。《雍正皇帝》

文例83, 84の主語内容は83「他」が動詞句内容の発生主体と見做せ、84「我办差不力，行止有亏子之道」が動詞句内容の受容客体と見做せるが、非動態的動詞句の動詞句内容「很爱清浄」「有」の発生存在時間は時間基点（発話時以前）に追隨するので、過去現在の文意と見做せる。

4.3 丙類，主語内容が発話時現在以後に存在し，発話時現在に於いては未発生未存在で，単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合について。この場合，主語内容の存在するであろう発話時現在以後が時間基点と成る。説明対象である丙類主語内容が時間基点（発話時現在以後）に存在する為，従って動詞句内容もこの影響を受けて全体的に未来的文意を表すに至る。丙類主語の文例は余り多くは見られないが，丙類主語⁽¹⁰⁾は確実に存在する。

85 张老师的下一任老师，那位老师是会从新加坡来的。

86 你将来的夫人是会喜欢你这种脾气的。

87 凭雪芹兄的才华，小弟不敢说夺得头名，位列三元是绝对没有问题的，都是你那位红颜知己迷惑了你的心性，才使考场上没有发挥好，这叫情场得意考场失意。《刘墉》

88 世叔放心，花多少钱都包在侄儿身上，只要把刘罗锅赶出江苏，白花花的银子还会流回来的。《刘墉》

文例85～88の主語内容は85「那位老师」，86「你将来的夫人」が動詞句内容の発生主体と見做せ，87「位列三元」，88「白花花的银子」が動詞句内容の受容客体と見做せるが，動詞句内容85「会从新加坡来」，86「会喜欢你这种脾气」，87「绝对没有问题」，88「还会流回来」の発生存在時間は時間基点時（発話時以後）の影響を受けて発話時以後と成り，未来的文意を表すに至っている。丙類主語内容と動詞句内容の関係については今後更に研究を進める必要が有ると思われる。

4.4 丁類，主語内容が一般的不特定多数を指すものと見做せる場合について。甲類主語，乙類主語，丙類主語に関しては明瞭不明瞭を問わず必ず主語内容の存在時間，詰まり時間基点 —— 時間基点（発話時現在以前），時間基点（発話時現在），時間基点（発話時現在以後） —— が特定され，それを基軸に動詞句内容の発生存在時間が定められる訳であるが，丁類主語に関してはこの様な時間基点が存在しない。結果として発話時現在に於ける一般論的説明の様相を呈するに至る。

- 89 内务府大臣是掌管后宫吃穿用度的，多是皇上亲信之人充任，虽是肥缺并不负责殿试考试，对于排定金榜前十名当然没有资格参与。《刘墉》
- 90 即使是皇帝亲临授命，学士们不行跪拜礼，理由很简单，学士们是专门起草圣命的，是代天子秉笔的，还需要给谁跪拜？《仁宗皇帝》
- 91 年羹尧张大了嘴，一时有些不明白，一向以为，皇帝是想怎么花钱，就怎么花的。《雍正皇帝》
- 92 您老明鉴，这买人也是有门道的 —— 发为血余，齿为骨余，一要看头发，二要看他的牙！《雍正皇帝》
- 93 相亲时第一印象最重要，尽管老爷多艺多才，人品也好，但这是内在的东西，别人看不见。而身材相貌是睁眼就能看见的… 《刘墉》
- 94 状元是经过层层科考，从数以万计读书人中选拔出来的，当然有真才实学。《刘墉》

文例89～94の主語内容は89「内务府大臣」、90「学士们」、91「皇帝」が動詞句内容の発生主体と見做せ、92「这买人」、93「身材相貌」、94「状元」が動詞句内容の受容客体と見做せるが、その指す所は特定の人物事物等ではなく不特定多数のものである為、動詞句内容89「掌管后宫吃穿用度」、90「专门起草圣命」、91「想怎么花钱，就怎么花」、92「有门道」、93「睁眼就能看见」、94「经过层层科考，从数以万计读书人中选拔出来」も時間基点を失い、三種文意（過去的文意、現在的文意、未來的文意）とは無関係な存在と成ってしまう。但し発話時現在という基軸は存在する為、発話時現在に於ける一般論的説明の様相を呈するに至っている。

- 95 宋朝前期的宰相名称甚怪，就是宰相，也分成三等，这三等又是由所带学士官来决定的。《仁宗皇帝》

文例95の主語内容は95「这三等」で動詞句内容95「由所带学士官来决定」の受容客体と見做せるが、特に時間差を付けたい場合は当然乍らその旨の表現を付加すれば良い。95「宋朝前期」が之に当たる。因って宋代前期に於ける一般論的説明の様相を呈するに至っている。

5 本論文に於いては、主語内容が当文型文意の時制等方面に及ぼす影響について論じてきた。主語内容は

- ・動詞句内容の発生主体と見做せる場合
- ・動詞句内容の受容客体と見做せる場合

の二つの場合が存在し、その上で主語内容は更に

- ・甲類（主語内容が発話時現在に於いて発話者の目視又は把握可能範囲内に存在する或る特定のものと見做せる場合）、
- ・乙類（主語内容が発話時現在以前に存在し、発話時現在に於いては既に存在せず、単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合）、
- ・丙類（主語内容が発話時現在以後に存在し、発話時現在に於いては未発生未存在で、単に話題として発話者に依って取り上げられている或る特定のものと見做せる場合）、
- ・丁類（主語内容が一般的不特定多数を指すものと見做せる場合）

に分けられる。それ等主語内容（発生主体か受容客体か及び甲～丁類の何類か）を持つ主語と組み合わされる動詞句の

- ・動態的動詞句
- ・非動態的動詞句

と云う性質と相俟って、三種文意（過去の文意、現在の文意、未来的文意）を現出せしめるに至っている。

注

- (1) 本論文研究対象である所の「主語+(是)+動詞句+的」文型の動詞句部分であるが、動詞句部分に状況語が付加されていないもの、又動詞句部分に主語が付加されているものも含めて研究対象とした。
- (2) 小説《赵宋王朝・仁宗皇帝》より文例を引用。参考資料参照。以下同断。
- (3) 小説《刘墉（上）》より文例を引用。参考資料参照。以下同断。
- (4) 小説《雍正皇帝・九王奪嫡（上）》より文例を引用。参考資料参照。以下同断。
- (5) 拙稿《「是…的」構文と已然義の関係について》文中に於いても因果関係より生ずる過去の文意（已然義）に関して言及している。又当文型文意が主語内容の発話時現在に於ける存在状態に因って左右される事についても、拙稿《「是…的」構文と已然義の関係について》、《「是…的」構文の特徴と意味》、《「是…的」文型文末の「的」と已然義の性質について》文中で度々言及している所である。

- (6) 本論分では便宜上「過去の文意」と称しているが、中国大陸の論文に於いては普通「已然義」と称される。已然義の対義語が「未然義」であるが、本論文に於いては便宜的に之を「未来的文意」と称する。
- (7) 本論文に於いては主語内容の存在時間を文意の時間基点とする。後出する所であるが、時間基点には、時間基点（発話時現在以前）、時間基点（発話時現在）、時間基点（発話時現在以後）の三種類が存在する。主語内容が発話時現在に存在する場合、時間基点（発話時現在）は発話時現在と一致する事に成るが、主語内容が発話時現在以前や発話時現在以後に存在し、発話時現在に於いては存在しないと見て取れる場合、時間基点（発話時現在以前、発話時現在以後）と発話時現在と云う二つの時間基軸が存在する事に成る。
- (8) 拙稿《「是…的」文型文末の「的」と已然義の性質について》文中に於いて言及済み。
- (9) 当文型を論ずる場合、主語内容が動詞句内容の発生主体であるものを取り上げる事が多いが、本論文に於いては受容客体である場合についても取り上げる。
- (10) 丙類主語文例は未来的文意を表す事と成るが、基本的に未発生未存在の事を表すので、物事の情報はやや曖昧になる傾向に在る。今後更に研究を進める必要性があると思われる。

参考文献

- 栗原千里2013《「是…的」構文と已然義の関係について》桜文論叢第84巻89～115頁
栗原千里2015《「是…的」構文の特徴と意味》桜文論叢第89巻121頁～148頁
栗原千里2016《「是…的」文型文末の「的」と已然義の性質について》桜文論叢第91巻285～316頁
赵淑华1979《关于“是…的”句》语言教学与研究第1期58頁～64頁
史有为1984《表已然义的“的b”补议》语言研究第1期250～255頁
陈平1988《论现代汉语时间系统的三元结构》中国语文第3期401～402頁
龚千炎1991《谈现代汉语的时制表示和时态表达系统》中国语文第4期251～252頁

参考資料

- 《雍正皇帝・九王奪嫡（上）》二月河著 巴比倫出版社 1999
《刘墉（上）》赵辉著 北京图书馆出版社 2001
《赵宋王朝・仁宗皇帝》李之亮著 江苏文艺出版社 2007